

富山医療福祉専門学校と災害協力協定を締結

(1月10日)



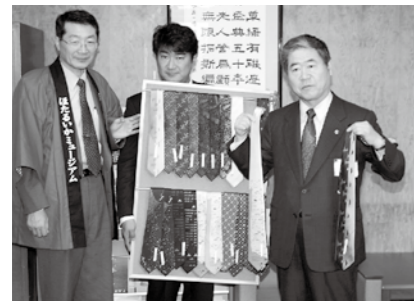
地震や風水害など大規模災害の発生時に、市民の皆さんの身体、生命と財産を守るための迅速な応急対策に努めるため、富山医療福祉専門学校との間で災害時応援協力を締結しました。

協定は、災害時に校舎などを救護用施設や要援護者の避難所として使用するほか、医療用機材や介護用品の使用、自校または他校の学生を募集し、市社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターへ派遣することなどが主な内容となっています。

この協定を含め、災害時における民間団体などとの協力協定は11団体となりました。

ご当地ネクタイの贈呈

(12月19日)



滑川のPRに役立てようと、(株)WAVE滑川と(株)高木久雄商店(高木久之社長)が「ホタルイカ」「海洋深層水」「ネプタ流し」などをモチーフに共同企画して作成した「ご当地ネクタイ」を市長に贈呈しました。

このネクタイは、8柄23種類あり、ほたるいカミュージアムや滑川ショッピングセンター・エールなどで販売されています。

「あいらぶ湯」利用者10万人を突破!

(1月20日)



6月11日にオープンした市民交流プラザの入浴施設「あいらぶ湯」の利用者が、当初計画よりも約50日早い192日営業日で、10万人に達成しました。

10万人目の佐々木郁弥くん(富山市)と前後賞の公博さん(郁弥くんの父)、宮崎順子さん(上市町)に市長から記念品が贈られました。

子どもサミット

(1月18日)

西地区コミュニティホールで「子どもサミット」が開かれ、北加積小と西部小の児童が学校ボランティア活動を発表し、その後、市内小中学校の代表者が意見交換をする会議が行われました。

会議では『みんなでつくろう いのち輝く ひかりのまち滑川 -伝えよう 自分の気持ち 広めよう あたたかい心-』をテーマに、各校で取り組んでいるあいさつ運動や市の将来像について議論され、市の将来像については「知らない人にもあいさつする温かい市にしたい」「高齢者や障害者に対し、優しいまちにしたい」などの意見が出されました。

また、サミットに先立って、県が昨年募集した作文コンクール「あいさつにまつわるいい話」で、小学生の部の最優秀賞に選ばれた米山駆くん(東部小4年)が「登山道で交わすあいさつ」、中学生の部の最優秀賞の岩城穂乃花さん(早月中3年)が「あいさつがくれた幸せ」と題した作品を発表しました。



成人式

(1月13日)



二十歳の決意を述べる
廣瀬俊輔さん



謝辞を述べる
石田健人さん



記念品の贈呈を受ける
竹花和樹さん



飲酒運転根絶署名簿を提出する
横山史織さん

時折、小雪が舞う中、新成人343人の門出を祝う「成人式」が市民会館大ホールで開かれ、式辞や記念品贈呈などに続き、成人者代表の廣瀬俊輔さんが二十歳の決意を述べました。
また、成人者による飲酒運転根絶の署名簿が滑川警察署長に提出され、閉会後には各地区ごとに記念撮影が行われました。

按田 九重さん 百歳のお祝い

(1月5日)

按田 九重さん(柴)が、満100歳の誕生日を迎えられ、市長より祝い状と記念品目録、花束などが手渡されました。

このあと、職員と一緒にくす玉も割り、ちょっぴり目に涙を潤ませながら、何度も会釈し、感謝の気持ちをあらわにしておられました。

読書が大好きな九重さん、いつまでもお元気で。



薬業従事者大会

(1月7日)



「市薬業従事者大会」が市民交流プラザで開かれ、出席者は改正薬事法による薬業従事者の資質向上、後継者育成など、直面する課題に果敢に取り組む、「滑川薬業」のさらなる発展を誓い合いました。
また、市長から功績のあった7人に表彰状が渡されました。
被表彰者(敬称略)
澤木安忠(田中新町)、岩田範正(坪川)、鷹取弘之(田中新町)、奥野富一(寺町)、下田 博(清水町)、小川孝一(下梅沢)、川村英明(沖田新)